

京都造形芸術大学職員総会挨拶

(当日の内容に加筆しました。)

2015年10月6日

尾池和夫

今日も1日の仕事を終えて、この劇場に集まっていただきました。本当にご苦労様です。皆さんの日々のお仕事によって学生たちが順調に学習に、課外活動に励み、また毎日の健康な生活を守って暮らしていくことができます。この大学の教職員のしっかりした連携が学生たちの成長を支えているという意識をいつも持ちながら、私も毎日の役割を果たしています。

昨日の夜、ノーベル生理学医学賞に、山梨県韮崎市の韮崎大村美術館の館長さんが決まったというニュースが入りました。彼は、学校法人女子美術大学名誉理事長、韮崎市名誉市民で文化功労者でもあります。昨年、大村先生は、発展途上国の医療や衛生問題の改善に貢献した研究者に贈られるカナダの「ガードナー国際保健賞」を、日本人として初めて受賞しておられます。美術大学の方がノーベル賞というのも、また今年の大きな話題になることでしょう。

大村さんは、静岡県伊東市のゴルフ場周辺の土から採取した新種の放線菌が出す物質から、寄生虫に効果のある抗生物質を発見しました。その土からうまれた薬剤の服用で、アフリカの年間約3億人に上る人びとを救うというのです。土1グラムの中には、約1億個の微生物がいるのですが、ノーベル賞につながった土が、伊豆半島ジオパークのジオサイトの土であるということも私にとってはたいへんうれしいことでもあります。

ところで、現在、瓜生山のキャンパスには、学園の役員室があり、京都造形芸術大学、京都文化デザイン専門学校、京都文化日本語学校、こども芸術大学などがあります。また、東京芸術学舎をはじめ多くの国内の拠点や東北芸術工科大学との連携による活動があり、海外の拠点や海外の多くの大学などとの連携による国際的な活動があります。

京都造形芸術大学には9746名（通学部3158名、大学院160名、通信教育部6254名、大学院174名）の学生が所属し、219人の教員と188人の職員がいます。そのチームワークが藝術立国乃碑に描かれた基本理念の元に教育と研究と社会貢献に努めています。そのような位置づけの中で、皆さんはご自分の立ち位置を時に再認識しながら、ご自分の役割の重要性を分析しつつ、毎日の仕事にその分析を反映していただきたいと思います。

自分の立ち位置を知るための一つの具体的な行動としてぜひ実行してほしいことがあります。それは学園の内外で行われる行事にできるかぎり積極的に参加してほしいというこ

とです。

瓜生山学園の内外では、学生や教職員の日頃の活動の成果が社会に公開されています。その成果もできるだけお互いに見に行つては相互に批判をしてさらなるお互いの進歩に役立てていただきたいと思います。

京造ねぶたの点灯式と表彰式ではすごい盛り上がりがありました。特に今年は全作品が2週間にわたる制作のゴールをみごとに飾っていました。1回生にとってハードな試練であったでしょうが、大きな成果が一生の糧となるに違いありません。表彰式の冒頭では根之木学部長が、「うれしい」「くやしい」という気持ちを声にだしてくださいといわれました。すばらしい言葉でした。グランプリの学長賞に選ばれた、Rクラスの「ブラジャー」は、同時に「アンスティチュ・フランセ関西賞」を受賞し、今、アンスティチュ・フランセ関西（旧関西日仏学館）のガーデンに展示されています。

大瓜生山祭は、9月19日（土）、20日（日）の2日にわたって開催され、大変盛況のうちは無事終了しました。2日間で、来場者数は15,326人と、去年の10,561人の1.5倍の方々にお越しいただきました。どうして1.5倍になったのかということ、在学生に対してアンケートするなどして、何とか把握するよう、事務局にお願いしました。これは私たちの学園にとって大切なことだと、私は思っています。

フードコロシアムでは、環境デザイン学科によるフレンチ料理のお店「環呼鳥」が優勝しました。そして私が選んだテーマ賞と大野木先生が選んだ店舗デザイン賞は、はからずも同じ映画学科でした。また、春秋座で開催されたファッションショーと、映画「バクマン」も好評でした。さらに、毎年人気を集めている「お化け屋敷」も、本当に怖かったという感想を聞きました。

一つだけ気になったのは、学園祭に2Rの視点がないということでした。使い捨ての生活習慣を大学からなくしていくことも私たちの重要な課題です。

同時に各学科の3年生が「学生発表展」として、それぞれの作品展示、研究発表を行ったのも好評でした。この展示や発表の経験が今後の制作研究の向上につながり、卒業制作展へ発展することと思います。

今年の京造ねぶたには、瓜生山同窓会からも、Eグループの「白い世界」に瓜生山同窓会賞が与えられました。そのための審査に加わられた同窓会役員の森梨絵さんたちが、同窓会の兵庫県支部の設立記念パーティーを企画してくれました。去る9月5日土曜日に姫路城の見える場所で行われたパーティーには、徳山理事長、大野木副学長たちと私も駆けつけて参加しました。当日はパーティーに先立って、田口章子先生の講演と姫路城の見学が行われました。それには通学部の卒業生と通信教育部の卒業生たちがほぼ同数集まり、

大いに交流の実を上げました。

この兵庫県支部の世話役を務められた方たちが、この学園の幅広い分野の卒業生たちの連携で、日常の仕事を進めており、その連携の延長がこの支部設立の原動力になっているように感じました。本当に素晴らしいことだと思います。

森さんたちは今、姫路の伝統工芸を継承する木地師の村岡さんたちと、地元姫路の新しい土産品になるようにと、「見返り千姫姫路こけし」を制作して、10月1日から販売を開始しました。姫路の伝統工芸品である姫路独楽の制作技術を生かして、木地師の村岡正樹さんが本体を削り出しています。森さんが考案と絵付けを担当して仕上げ、JR姫路駅南のじばさんびる「播産館」で販売し、初日に用意した分をたちまち完売したそうです。

また、国立民族学博物館では「韓日食博」が開催されています。これは、日韓国交正常化50周年を記念して、「韓国と日本の食文化と博物館」について韓国国立民俗博物館と共同で開催する展示です。韓国における「食の50年の歩み」、「キムチの世界」、「台所の世界」などが、日本との比較によって展示されています。京都造形芸術大学と韓国芸術総合学校による「現代の若者たちの食生活」や「食の漫画に現れるオノマトペ（擬音語・擬態語）」などのアーティスティックな展示があります。大阪工業大学による「餅つき」や「たこ焼き作り」などをバーチャルに体験できる情報工学的な展示も楽しめます。

京都府立植物園では、「PANTHEON—神々の饗宴—ヤノベケンジ×増田セバスチャン×高橋匡太」秋のライトアップが行われています。New Generation Plantと「雷神」「フローラ」「風神」のライトアップパフォーマンスが毎週リニューアルされて演出されています。

その他にもたくさんの企画があり、毎日日本の各地で本学園の方たちが研鑽の成果を見せています。それらに参加して、大いに切磋琢磨しようではありませんか。

今年の10月1日現在、京都造形芸術大学の通学部の卒業生は9916名（大学卒業9069名、修士修了817名、博士修了30名）、通信教育部の出身者は5735名（学部卒業5270名、大学院修了465名）です。京都芸術短期大学の卒業年次在籍者は芸術学科11990名、専攻科1431名、京都文化日本語学校の出身者は、73か国に及び全体で4680名、京都芸術デザイン専門学校の出身者は2819名で、学園全体では36571名の出身者がいます。やがて間もなく訪れる創立40周年に向けて、特に同窓会を確立することが重要です。兵庫県支部の設立は大きなヒントを与えてくれました。同窓会の確立のために皆さんの知恵と努力を結集していただきたいと思います。そのためには、この学園に人生の未来を託している現在の在生学生たちが、学習環境に満足して、卒業制作に力をそそぎ、就職先や進学先を明確にして、卒業式を迎えることが必要です。そのために教職員の皆さんと、私たち役員も全力を

投じていかなければなりません。

建物の新築と耐震化を進めて安全なキャンパスを実現し、トイレをきれいにし、カフェを改築し、学園のハード的な環境を改善することも重要です。そしてその運営も重要です。

それらを考えて行動するために、具体策として今年私は、各分野の学生たちともっと身近に話し合う機会を作りたいと思っています。昨年は、各学科の教職員の方たちとの懇談を通じて大学への理解を深め、さまざまな面から現状を把握することに努めました。ことは学生の目を通してさらに学園を見つめていきたいと思っています。計画を具体的にすすめるため、担当の教職員の方たちにご協力をよろしくお願いいたします。

研究に関しては、外部資金を積極的に申請していただきたいと思います。申請して資金を獲得することがもちろん重要ではありませんが、申請数を増やすことも重要ですが。日本はともすれば国の教育と研究への支出が削減され、それが研究論文の減少という、世界的に見ても異様な状況を生み出しています。科学研究費などを多く申請することに意義があります。とくに芸術の分野の申請が少ないと思います。教員の皆様にとくにお願いしたいことです。よろしくお願いいたします。

学園生活に関して、いつも申し上げることですが、学生たちに朝食を勧めいただき、バランスのとれた正しい食生活を送るよう日頃からご指導をお願いしたいと思います。引き続き学長が提供する朝食券を活用していただき、さまざまな場面での学生への謝礼や表彰にも使っていただきたいと思っています。

オープンキャンパスにはいつも多くの教職員の方たちのご協力をいただいておりますが、さらに分析と工夫を重ねてほしいと思います。今、日本の大学への就学人口はアジアの近隣諸国に比べてたいへん低い状況が続いています。平成27年度学校基本調査の速報値では、少しずつ増加しているとはいえ、大学への進学率が48.9%、それに短大と専門学校への進学者を加えてようやく71.2%です。進学率が低い原因はいろいろあるでしょうが、やはり経済的負担が大きすぎることにあります。今後とも奨学金などを制度の充実に努力を続けますが、皆さまの知恵をいただきたいと思っています。とくに職員の皆さんは、大学と学生たちとのインターフェイスです。オープンキャンパスに来た人たちの声を、あるいは在学している学生たちや卒業生の声を、どんなことでも聞き漏らさないようにしていただいて、それを学園の役員に伝えていただきたいと思います。

年度の半ばを過ぎ、卒業と入学の時期に向かって、ますます健康に留意されつつ、仕事に励んでいただきたいと願って、私の所信表明の一端といたします。ありがとうございます

した。